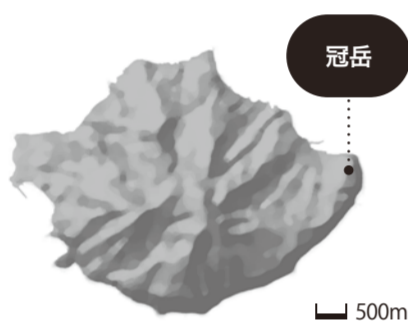




5



大里地区八〇代 女性

「私のお婆さんによれば冠岳の頂上には池があつてタニシもいたそうです。昔の山火事で池は消えました。炭焼きが盛んな頃でも、冠岳の木を切る山師は誰もいませんでした。」

思い出話

大里の冠岳でも自然物の持ち出しは禁じられており、冠岳は神山だと考えられている。そのため冠岳は現在も自然植生を保持しており、[▲]他の山と木の種類や大きさが明らかに異なる。日本は近代の開発で多くの自然植生を失ってきた。そのなかで神山は自然植生を守り、次世代に継ぐべき貴重な文化財となっている。

山や森は聖地となつて樹木の伐採や水質汚染を防ぎ、結果、人々の生命を守り、地域文化を育んだ。昔の人々は経験的に、樹木の伐採が急傾斜地の土砂崩れを呼ぶことや、森林に貯水能力があることを知つていたと推察される。

南九州から沖縄にかけて、集落付近の山や森を神聖な場として、樹木の伐採や落葉落枝の採集を禁じる文化がある。聖地の呼び名は、指宿市・錦江町・南大隅町などでは「モイドン」、種子島で「ガロウ山」、屋久島で「奥岳」、中之島・悪石島・宝島・奄美大島などでは「神山」、沖縄・八重山では「御嶽（ウタキ）」となる。

神山(冠岳)

大里

日	月	火	水	木	金	土
25	26	27	28	29	30	1
2	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6	7	8 旧 3/20
9	10	11	12 新月	13	14	15
16	17	18	19	20 上弦	21	22
23 旧 4/12	24 旧 4/13	25	26 満月	27	28	29
30 旧 4/19	31 旧 4/20	旧 4/14	旧 4/15	旧 4/16	旧 4/17	旧 4/18